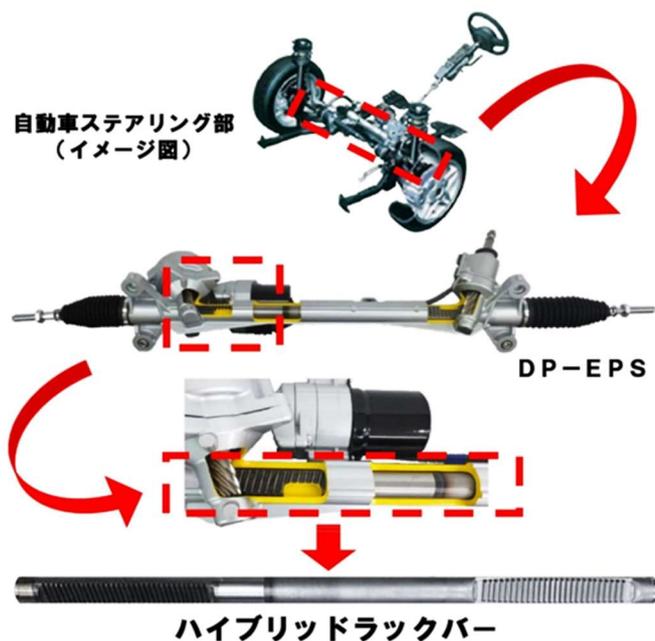


“ハイブリッドラックバー”「2019年“超”モノづくり部品大賞」モビリティ関連部品賞受賞

自動車の操舵装置用部品であるハイブリッドラックバーが「2019年“超”モノづくり部品大賞」（主催：モノづくり日本会議／株式会社日刊工業新聞社、後援：経済産業省／日本商工会議所／日本経済団体連合会）のモビリティ関連部品賞を受賞いたしました。

ハイブリッドラックバーは、デュアルピニオン式電動パワーステアリング（DP-EPS）に使われるラックバーであり、 Netzlen独自の冷間逐次成形加工技術により鋼管を用いて加工する中空ラックバーと中実ラックバーを摩擦圧接することで、大幅な軽量化（中実品比約1kg）に成功しました。また、操舵側の歯部に可変ギアレシオ（VGR）を採用することで操縦安定性にも寄与しています。このような点が評価され、今回の受賞となりました。

Netzlenでは、高周波熱処理技術を基軸にした表面改質技術で、高い信頼をいただき、様々な産業に貢献しています。これからも熱処理技術を極め、社会のお役に立てるよう、グループを挙げて取り組んでまいります。



贈賞式（2019年11月29日）
モノづくり日本会議・株式会社日刊工業新聞社 主催

本件に関する問合せ先：

管理本部企画管理部企画法務課

Tel：03-3443-5441

E-mail: neturen.hp@k-neturen.co.jp